Special

## 山口県のスポーツビジネスと地域経済活性化

# 山口県の主なスポーツチームの取組（その４）：ながとブルーエンジェルス

「山口県のスポーツビジネスと地域経済活性化」で今回紹介するのは、7 人制ラグビー（セブンズ）の女子チーム「ながとブルーエンジェルス」である。2017 年誕生のながとブルーエンジェルスは、国内最高峰の大会で 4 度の総合優勝を果たし、オリンピック選手も輩出する一方、複合施設を運営するなど、地域に密着した活動を展開している。本稿では、チームの全般的な運営を行う村杉徐司ハイパフォーマンスディレクターと、設立に尽力しメインスポンサーも務めるヤマネ鉄工建設㈱の山根正寛代表取締役にインタビューを行い、村杉氏には選手獲得やチーム運営等、山根氏には女性の地位向上をはじめとする設立目的を中心に語っていただいた。

インタビュー①

## 7 人制女子ラグビーの国内最高峰大会で 4 度の総合優勝<br>競技に集中できる環境を整え、国内トップ選手が集結

ながとブルーエンジェルス　ハイパフォーマンスディレクター　村杉　徐司 氏

## スピーディーな展開が魅力の７人制女子ラグビー　選手のプレー環境整備に尽力

**― はじめに７人制女子ラグビーの特徴を教えてください。**

**ながとブルーエンジェルス　村杉徐司ハイパフォーマンスディレクター（以下「村杉 HPD」）：**ながとブルーエンジェルスは長門市を拠点とする７人制ラグビー（セブンズ）の女子チームです。７人制は 15 人制に比べて展開が早く、ラグビー初心者の方が観戦してもエキサイトできる一方、選手個々の技術が長けていないと成立しない競技です。日本は女子選手のレベルが高く、ながとブルーエンジェルスが４度総合優勝した国内最高峰大会「太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ」も年々ハイレベルになっています。

**― ながとブルーエンジェルスの中で村杉様はどのような仕事を任されていますか。**

**村杉 HPD：**選手のリクルートに加えて、チームの環境を整えてラグビーがしやすいようにすることが私の役割です。日本人選手は全員が仕事をしながら練習に励み、試合に臨んでいますので、勤務時間とのスケジュール調整もしています。

シーズン中は選手との面談も重ねています。特に、試合のメンバーに選ばれるか否かでメンタルの浮き沈みが出るため、そのケアはコーチとともに行っています。

## 「本気でラグビーに取り組むなら、ながとブルーエンジェルス」が全国に浸透　国際交流も推進

**― ながとブルーエンジェルスに関わられた経緯を教えてください。**

**村杉 HPD：**私がコーチをしていた女子チームの総監督でラグビー元日本代表の増保輝則さんを通じて、ながとブルーエンジェルス立ち上げへの協力の打診がありました。当初はアドバイザーとしての参画を考えていましたが、選手やコーチのリクルートなど現場に関する業務に全て携わり、東京で教えていた高校生にも入団を勧誘しました。そのうちに「村杉さんが行くなら私も行きます」という声が出てきたので、腹を括って家族と一緒にこちらに来ました。大きな決断でしたが、ヤマネ鉄工建設㈱の山根正寛社長が「選手たちのため、自分たちのためにやってほしい」と強く言ってくれたのが、思い切って長門に行くきっかけになりました。

**― ゼロからのスタートで大変だったと思います。その後の歩みも聞かせてください。**

**村杉 HPD：**2017 年の入れ替え戦（※１）を突破し、翌年のウィメンズセブンズシリーズに出場すべくリクルートを行い、目標通り参加できましたが、実績がない中での選手集めは苦労しました。

流れが変わったのは 2022 年です。中学２年生の頃から教えていた日本代表の平野優芽選手が来てくれてから、田中笑伊選手、井上藍選手、バティヴァカロロ アテザ優海選手という同世代のスター

※１：ウィメンズセブンズシリーズは原則として 12 チームで構成され、参入するには入替戦（2023 年まで）または昇格大会（2024 年から）に出場して上位に入る必要がある。

がこぞって入りました。未だに選手獲得の苦労はありますが、「本気でラグビーに取り組むなら、ながとブルーエンジェルス」という雰囲気が、全国の女子選手の間で広がってきています。

**―外国人選手もプレーしていますが、この点で特に意識されていることはありますか。**

**村杉 HPD：**現職のオファーを受けるにあたり、外国人の選手やコーチを呼ぶこと、年に１回は海外遠征したいとの希望を述べました。チームが勝つためでもありますが、ラグビーを通じた国際交流も目標としたかったからです。日本人選手が英語で会話をしながら、ラグビーが好きだという想いを共通言語にして交流することも、チームの立ち上げから関わる中で意識してきた点です。

## 飲食やスポーツが楽しめ、選手とファンたちが交流できる場所「SWEET AS」を運営

**―2020 年にカフェと様々な屋内スポーツの体験エリアを併設した「SWEET AS」（スイートアズ）をオープンされました。目的を聞かせてください。**

**村杉 HPD：**ラグビー強豪国のニュージーランドでは、各チームにクラブハウスがあり、そこにレストランやバーも併設されていて、ファンや地域の人々が選手たちと歓談したり、パブリックビューイングを楽しんだりしています。そういう文化を山根社長に説明し、一緒に視察にも行った結果、施設のオープンが実現しました。

コンセプトづくりには私も関わっていますが、辻﨑由希乃選手がマネジャーとして全般的に対応してくれました。彼女は 2018 年に福井県代表として国体（現・国民スポーツ大会）に参加し、活躍をしていたのが目に留まって獲得した選手です。オリンピック代表に選ばれるなどプレーのスキルが高い上、仕事もでき、アイデアも豊富ですので、運営に広く関わってもらいました。

**―「SWEET AS」にはどういう意味が込められていますか。**

**村杉 HPD：**25 年くらい前に私が初めてニュージーランドに留学した時、チームメイトがよく使っていたスラングで、「最高」とか「かっこいいね」「問題ないね」という意味があります。当時、すごくいい言葉だと思ったことから、この名前にしました。

写真左：「SWEET AS」のカフェスペース　写真右：「SWEET AS」のスポーツエリア

## 最優先はチームが強くあること　海外でのプレー経験も積ませていきたい

**―チームの今後の方針としてはどういうことを掲げていますか。**

**村杉 HPD：**勝って輝くことが大事だと思っています。賛否両論あると思いますが、まずはチームが強

いことが最優先だと思います。勝つことによってアピールできる部分は大きいからです。我々がいくら国際交流をしようと言っても、チームが弱ければ大きな意味を持ちません。勝利する姿を見せる中で、国際交流や情報発信が意味を持っていきます。選手にはプレッシャーが掛かると思いますが、まずは勝たなくてはいけないと思います。

一方で、外国人選手もよく言っていますが、スーパーで買い物をしていると地元の方に声を掛けていただいたり、試合（※２）の時には遠くまで応援に来てくれたりします。そういう意味では地域に大いに支えられていると感じます。

地元への貢献に関しては、「SWEET AS」に子どもたちを集めてマルチスポーツ教室を開き、タグラグビーやバスケットボールを楽しんでもらっています。今後、大人でもラグビーをしたい人がいれば、グラウンドでタッチラグビーのようなイベントをやりたいと考えています。

**― チームの理想像として、どうありたいと考えていますか。**

**村杉 HPD：**選手たちには他のチームではできない経験をさせてあげたいと思いますので、海外遠征やラグビー留学といった取り組みを行っています。私は若い頃、ラグビーが上手くなりたくてニュージーランドに留学しましたが、ゆくゆくはそうした海外の若い選手を、逆にこちらで受け入れられるようにしたいですね。ラグビー後進国の子どもたちが、上手くなりたいからながとブルーエンジェルスに行きたいという流れになれば、私たちの活動はより意義があるものになると思います。

※２：ウィメンズセブンズシリーズはサッカーＪリーグのような「ホーム＆アウェー」形式ではなく、参加チームが全て１か所に集まり、ポイント制で順位を決める形式（総当たりではない）で開催されており、2024 年シーズンは４大会（福岡県北九州市、埼玉県熊谷市、三重県鈴鹿市、大阪府東大阪市）が行われた。

**写真左上及び左下：プレー中の選手**
**写真中：トレーニング風景**
**写真右：ニュージーランド留学中の選手**

インタビュー②

# チームの活躍を発信し、女性の地位向上など社会課題の解決に貢献

**ヤマネ鉄工建設株式会社　代表取締役　山根　正寛 氏**

## 女性の地位向上等に向けた機運醸成への貢献が最大の設立目的

**―貴社がメインスポンサーとなって「ながとブルーエンジェルス」が創設されました。目的と経緯を教えてください。**

**ヤマネ鉄工建設株式会社　山根正寛代表取締役（以下「山根社長」）：**直接的には、ラグビーワールドカップ日本大会（2019年）のキャンプ地を長門に誘致した際、大会後のレガシー（社会的な資産）を作れたらという話が浮上したのがきっかけで、最終的に女子チームの設立に至りました。

最大の目的は、女性の地位向上や働く場所・居場所の提供、ひいてはLGBTQ等を含むダイバーシティ（多様性尊重）の推進に向けた機運醸成に貢献することです。特に地方では、若年女性が東京など大都市圏に流出しており、その背景として、いわゆる「ジェンダーギャップ」の問題が指摘されています。当社ではチーム誕生前から、女性社員の給与水準向上に率先して取り組むなど、男女関係なく働ける環境の整備に取り組んできました。こうした点を私があれこれ話すより、ながとブルーエンジェルスというスポーツチームを通じて、女性が活躍している姿を発信する方が、企業等へのアピールの効果が大きいと考えています。実際に、こうした取り組みは大手上場企業からも、社内変革の参考になると高く評価されています。

チーム立ち上げ後、村杉さんと二人三脚で歩む中、一番苦労したのは選手集めでしたが、ストイックに競技に向き合える環境を整え、今はラグビーをするには最高の場所になっていると思います。

## 複合施設を通じて地方に「女性の居場所」を作る

**―現在はどのような支援をされていますか。**

**山根社長：**1点目はジム、クラブハウスなどの施設整備等を通じてプレーの環境を整えること。2点目は遠征などの金銭面からのサポートです。

働く場所の提供も支援の一つと言えます。日本人選手は1人を除いて当社で働き、経理、人事、設計など色々な部署で活躍しており、社員としても貴重な戦力になっています。

**―貴社の旧工場を改装して作られた「SWEET AS」に込めた思いを聞かせてください。**

**山根社長：**地方では若い女性の楽しめる場所が少なく、特に夜間、安心して飲食できるお店自体もあまりない。「SWEET AS」は、開放的・おしゃれな雰囲気でお酒が飲める空間としたほか、時間帯によっては子どもも遊べるようなゾーンを併設しているので、女性の居場所となり、若者や子育て世代が出て行くのを少しでも食い止めるきっかけになるのではと思っています。

**―チームと貴社の経営との関係で何か感じられたことはございますか。**

**山根社長：**一例を挙げると、パリ五輪主将の平野優芽選手は、視野が広く全方位をカバーでき、わず

かな穴を見つけて突破していく。同じく五輪代表の大谷芽生選手は、相手が大きな選手でもひるまずに突っ込んでいくほか、辻﨑由希乃選手の独特のステップも相手チームの大きな脅威です。こうした選手の特徴が、経営におけるヒントを与えてくれる面もあります。

## 国内外にチームの活動を発信　社会変革へとつなげていきたい

**― 最後に、チームへの期待と今後の展望について聞かせてください。**

**山根社長：**選手たちに言い続けているのは、勝利という形で結果を出してほしいということです。結果を出せば、冒頭に述べた発信力の向上につながります。

今年７月から新野由里菜選手がニュージーランドのチームに参加し、現地の大会で準決勝まで全試合に出場して、６トライを取って信頼を得てきたと聞いています。このように今後、日本人選手が海外チームに入ってラグビーを通じて信頼関係を築くとか、海外から若い有望な選手を招いて練習に参加してもらい、チームのメンバーとコミュニケーションを取りながら各国の文化の多様性を理解するなど、いい影響を与え合えればと思います。そうした活動を通じて、日本さらには世界に情報を発信し、設立目的を達成することによって社会変革につながれば理想的です。

### おわりに

ながとブルーエンジェルスは、誕生から数年で日本最強のチームへと成長し、五輪に選手を送り込むなど、存在感を一気に高めており、その効果を社会課題解決にもつなげるべく活動を展開している。地域のスポーツチームがスポンサー企業や住民に支えられ、プレーと仕事を両立しながら活躍する事例を取材した本稿が、多くの皆様の参考となれば幸いである。

**■本シリーズ今後の掲載予定**
有識者インタビュー
（スポーツを通じた地域活性化のあり方と企業等の役割について）

ながとブルーエンジェルスホームページ▶

ヤマネ鉄工建設㈱ホームページ▶

＊選手画像提供：ながとブルーエンジェルス